

麦跡湛水直播栽培の適品種と苗立ち密度

県農業試験場 作物部(現、農研センター農産園芸研究所作物部)

研究のねらい

米の需要供給の不均衡は拡大の傾向にあり、今後とも生産及び米価の抑制は強化されることが考えられる。このような情勢のなかで有利な稲作経営を行うには、生産コストの低減と良質米の生産性を高めるとともに生産規模の拡大を推進し、より効果的な技術体系を確立する必要がある。

これらのことから、水稻の省力栽培技術である湛水直播栽培について、稲麦一貫体系を前提とした安定多収栽培技術を検討し、水田の生産性向上を図る。

研究の成果

1. 平坦地

- (1) 麦跡湛水直播栽培の品種としては、6月中旬の播種では晩生の早種のシンレイが適する。6月下旬の播種では熟期、収量の安定性から、早生品種の黄金晴の適応性が高い。
- (2) 平坦地での苗立数は、 m^2 当り60~80本(10a当り播種量乾籾2.5kg程度)が適当とみられる。苗立数が m^2 当り50本以下の場合、早めに(4葉期まで)分けつ肥を施用し、莖数を確保するとともに穂首分化期追肥により籾数の確保に努める。

2. 中山間地(球磨)

- (1) 麦跡湛水直播栽培の適品種は、平坦地と同一傾向がみられ、6月初めの播種であればシンレイが適し、6月10日頃の播種では黄金晴が適する。
- (2) 中山間地(球磨)においては、追肥その他の管理による生育の調整は行いにくいので、播種作業の精度を高め、出芽・苗立の安定化を図ることにより、 m^2 当り苗立数を80~100本(10a当り播種量乾籾3kg程度)を確実に確保する必要がある。

3. 苗立数が増加するほど倒伏程度が大きくなるので、適正な苗立密度を確保するよう規定の播種量を守る。

4. 黄金晴は倒伏に強くないので、施肥、水管理には十分留意し生育の健全化に努める。 なお、中山間地においては、年によりいもち病の多発が懸念されるので防除には十分留意する。

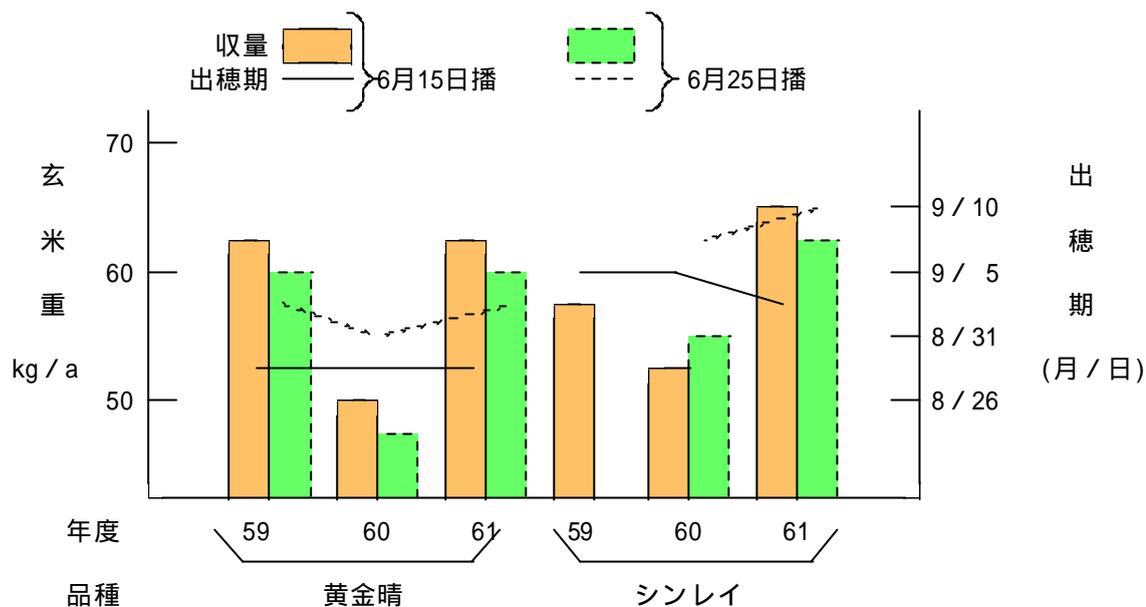


図1 播種期と出穂期及び収量（農試本場）

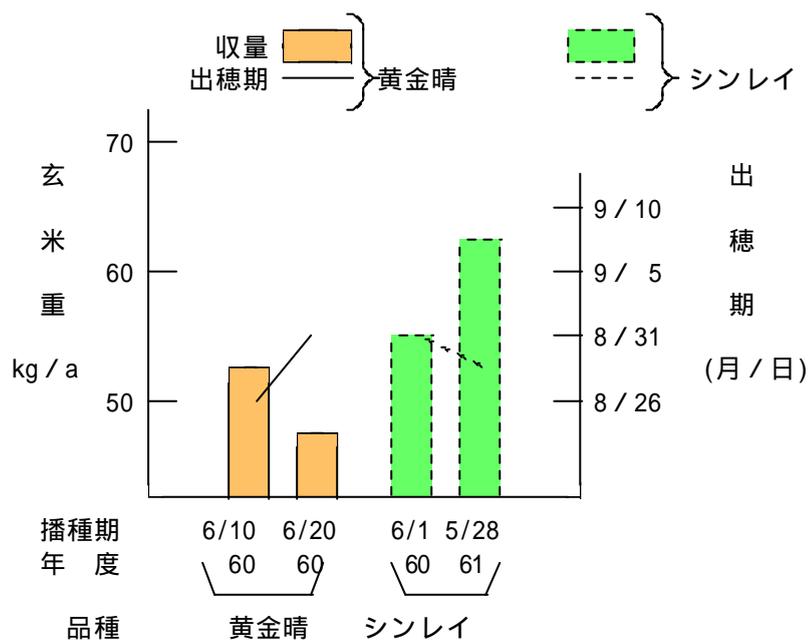


図2 播種期と出穂期及び収量（球磨農研）

表1 播種量とm²当り苗立数

10a当り播種量(乾籾kg/10a)		2.0	2.5	3.0	3.5	4.0
m ² 当り 苗立数	苗立率 70%の場合	53	66	79	92	106
	" 80%の場合	60	75	91	106	121